

私のおすすめ この1冊!

写真でマスターする きちんと 確実にできる 全部床義歯の印象

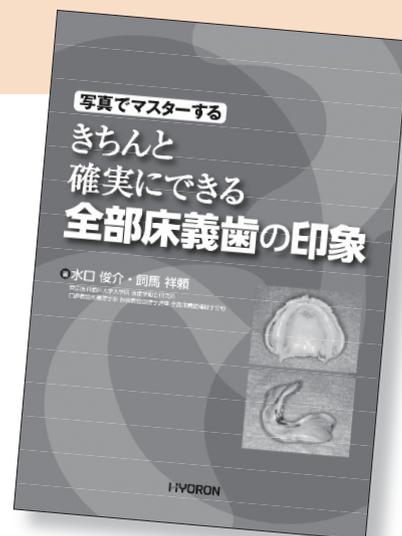
水口俊介・飼馬祥頼 著

A4判・96頁・定価6,825円(税込)

2011年11月21日 ヒョーロン・パブリッシャーズ刊

村岡 秀明

(千葉県市川市/村岡歯科医院)



「これは読みやすい!」というのが第一印象である。写真の大きさもいいし、ページ毎の写真の枚数もいい。美しい写真が的確に必要な部分を捉えているし、適切な図説により読者はどんどん本の中に引き込まれていく。素晴らしい本だと思う。

以前、写真に図説を組み合わせた“アトラス”というスタイルが流行った時期があったが、その時の図説は単なる写真の説明でしかなかったような気がする。しかし、この本は違う。図説にかなり内容がある。それを読み込むことによって、どんどん理解が進むようになっていく。

また、最近はプレゼンテーションなどで動画が盛んに利用されている。動画は手技を見るのには適しているが、時間とともに話題が先に進んでしまうので、1つ1つの事柄をじっくりと考えるには、やはり本が適している。映画と小説を比べてみても、映画は、具体性があるが、その流れの中に引き込まれるような楽しさがあるが、そのシーン毎のイメージを静止させて、じっくりとそこに深く浸るといことは小説でなければできない。

読者によって感じ方が違うのが小説のおもしろ味であるのだが、「全部床義歯」の場合、それでは困る。

文章だけの説明であると、理解したようでいて、全然別のように捉えてしまうからだ。もし読者が初学者(独習者)であるならば、この本の写真と図説を照らし合わせながら、1枚ずつじっくりとクリアしていくのがよいと思う。

私は、大学卒業後、実際の臨床の場で、総義歯について学びたいと思った時、まず“形”について覚えろ、と言われた。「総義歯には総義歯の形がある」である。しかし、実のところ、なかなかそれが理解できなかった。絵や字を描くことと同じで、どう描くか、その理屈はわかったのだが、実際に描いてみると全然違うものになってしまう。

この本は、第1章が「解剖学的ランドマークにおおいに注目しよう」であり、私がまず初めに教わった“形”ということと一致している。そして、解剖学的裏づけが示されていて、これらの知識を頭に入れて診断を行えば、「義歯のイメージを簡単に想起できます」と書いてある。そして、「この本で最も重要な章です。しっかり頭に入れてください」とある。第1章は12頁あるが、本章の写真と図説をじっくりと見比べながら、繰り返し読めば、「総義歯には総義歯の形がある」は、マスター

できると思う。

では、もうそれで、満足な総義歯印象を採得することができるようになるのだろうか。実はそれがなかなか難しい。「能書きじゃあ、入れ歯は入らない」という言葉があるが、それが総義歯の難しさであり、おもしろさでもある。総義歯は実学である。理解しても手が動かないと役に立たない。また逆に、手が動いているようでも、コツを理解していないととんでもないものになってしまう。そこで、第4章では、実際の印象に入る前に、トレーニング用の模型を使った、印象のトレーニングの方法が述べられている。「天才とは努力し得る才だ」とのことだが、初学者はその努力をどのように行ったらよいかわからない。それをこの章が教えてくれる。さらにこのあと、上顎の精密印象、下顎の精密印象と進み、最後に、ボクシングと作業模型製作のところで終わっている。

となれば、このわかりやすい本を繰り返し繰り返し読んでマスターすると、次は、咬合採得、咬合、人工歯排列、試適、完成義歯装着時の調整、等について書かれた続編が読みたくなり、その発刊をヒョーロン・パブリッシャーズに期待するのは、私だけではないはずである。